

e-dream-s 通信

No. 162 発行：2015年2月8日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

e-dream-s 通信2月号をお届けします。お楽しみください。

目次

- | | | |
|------------------------------|-------|--------|
| 1. CamTESOL 2015 の成功を！ | 中川 房代 | p.2 |
| 2. 忙しい人間の娯楽 | 辻 荘一 | p.3 ~ |
| 4 | | |
| 3. 中国人女子留学生と雑談して感じたこと、分かったこと | 井川 好二 | p.5 ~ |
| 12 | | |
| 4. 持続可能な在り方 | 塚本 美紀 | p.13 |
| 5. カンボジアの伝統結婚式に招待されて（2） | 飯田 佐恵 | p.14 ~ |
| 16 | | |



CamTESOL2015-flyer
CamTESOL 2015の成功を！

中 川 房 代

CamTESOL 2015 の開催が近づいてきた。今年1回目を迎えるカンボジア、プノンペンでの CamTESOL（英語教育学会）に、e-dream-s / ACROSS が参加を始めて8年目。今回は、2月28日（土）～3月1日（日）の日程で行われ、井川顧問の発表、塚本理事の発表の2つを予定している。

この8年で、カンボジアの国内外の状況は大きく変わってきたし、現在もかなりのスピードで変化しつつある。詳しいデータに基づいてではないが、プノンペン周辺では、道路が広くなり、大きなホテルが建ち、大型のショッピングモールができ、物価も上がり…と、私たちがカンボジアに行くたび、その変化に驚く。

経済の変化の大きさほどではないが、教育、英語教育も変わってきているはずである。私達が毎回訪問する **Batheauy High School** の生徒も英語ができる生徒が増えてきていると聞く。しかし、その分、都市部と農村部との格差が広がっているという話もよく耳にする。私自身もこの約2年半ほどカンボジアに行っておらず、それまで何度か訪問した際も、現地の先生方とじっくり話をする機会もあまりなかったので、現場の先生方が実際にどう感じているのか、一度ゆっくり話を聞いてみたいと思う。

毎年2月に行われる CamTESOL の後に、短い間ではあるが、カンボジア在住のソコム理事をはじめ **team Phnom Penh** の皆さんに会って、今度のプロジェクトの方向性についても話をするのが恒例になっている。e-dream-s のカンボジア・プロジェクトは、昨年秋は4校目の学校に、英語の教科書を贈呈し、これでこの地区のすべての学校への教科書の寄贈が完了した。次はこのカンボジア教育支援をどのように進めていくか。どんな支援が必要なのか、検討していきたい。

English: Building skills for
regional cooperation and mobility

Join us in 2015 for the 11th Annual CamTESOL Conference on English Language Teaching, the ELT conference on the Mekong with more than 1,500 participants from over 30 countries.

28 February - 01 March 2015
Phnom Penh, Cambodia



忙しい人間の娯楽

辻莊一

教師の仕事は基本的に忙しく、学校はいわゆる「ブラック企業」である。定時に帰れることなんてまずないのだが、時間外手当はない。クラブ活動にはとても熱心とは言えない私でも、模擬試験、学校説明会、土曜授業など土日に出勤することが多い。休日出勤には代休がもらえるが、有給休暇さえも消化したことはない私にそれが使えるわけもない。クラブ活動ならば休日出勤手当がでるが大体時給400円。どんなバイトよりも低いが、バイトと違って事故があれば責任問題になる。ちなみに義務教育等教員特別手当として時間外手当がない理由になっている4%の給与上乘せは、一日あたりの残業時間に換算すると、 $8(\text{時間}) \times 60(\text{分}) \times 0.04 = 19.2(\text{分})$ である。勤務時間終了後20分以内に毎日帰宅するのは、まあほとんど不可能と言ってよい。いやいや、こんなことを書きたいのではなかった。とにかく忙しい生活をしているということを言いたかったのだ。

忙しいと楽しみのために時間を作ることが難しくなる、特に日時の選択の幅が狭い、コンサートなどには全く行けなくなる。時間が全くないわけではないが、自分のスケジュールを何か別のもののために合わせるとするのが難しいのだ。葬儀などのつぴきならぬ用事ならともかくコンサートや映画などの楽しみのために自分のスケジュールをやり繰りするの、できないことはないが日常業務へのしわ寄せを考えて尻込みしてしまうのである。

したがって楽しみはたまたま空いた時間にすぐできることに限られてくる。読書は当然として、ここ数年はポッドキャストがマイブームである。ポッドキャスト¹は好きな時に聴けるラジオ番組のようなもので、気に入った番組を登録しておけば自動的にダウンロードされて好きな時に聴くことが出来る。ビデオポッドキャストもあるが、通常音声だけなので歩きながらや運転しながら聴けるのが良い。エンターテインメントだけでなく、テレビではまずないような知的レベルも高く興味深い内容の番組も多くある。

¹ ポッドキャスト (英: Podcast) とは、インターネット上で音声や動画のデータファイルを公開する方法の1つであり、オーディオやビデオでのウェブログ (ブログ) として位置付けられている。インターネットラジオ・インターネットテレビの一種である。

映画についてはシネコンが近所にできて月一ぐらいなら楽しめるようになった。なにしろ思いついたら面白そうな映画をネットで予約すれば、家を出て30分以内に座席に座れて、終わってから30分以内に帰れるのだから、こんなありがたいことはない。

問題はテレビである。自分が見る時間帯にはろくなものがないし、わざわざ録画して見るほどのものもほとんどない。DVDをレンタルすればいいのだが、店に行って選んで借りてきても返却期限というものがある。つい見忘れていて慌てて見たり、見ないで返すなんてこともあってあまりよろしくない。またテレビなどのシリーズ物だと何回も借りたり返したりを繰り返さなければならないのも困る。

そこで定額の料金を毎月払えば、決まった枚数のDVDが借りられるというサービスを検討した。ネットで注文すればDVDが送られてきて月に視聴できる枚数の制限はあるが返却期限はなく、見終わったら送り返せばよいという仕組みである。見込がありそうだとすることで各社の条件を比較検討していたのだが、結局オンデマンドネット配信サービスがあったのでそちらに入会した。自宅のテレビ、PC、スマホ、タブレットなどどの端末でも見ることができる。もちろん返却期限も見られる本数の制限もない。テレビのリモコンでテレビ番組のように見る映画やTV番組を選ぶだけで、いわば自宅にDVDのレンタルショップができたような感じだ。気に入らなければすぐ別の番組に切り替えれば良い。わざわざレンタルショップに出向いて借りてきてまた返却しなければいけないDVDがハズレだと頭に来るが、リモコンで選んだだけの番組なら、まったく腹も立たないのもよろしい。

このサービス、品揃えがイマイチなところなど不満な点がないわけではないが、今のところアメリカの名作テレビドラマなどを見て楽しんでいる。

e-dream-s.come.true

中国人女子留学生と雑談して 感じたこと、分かったこと

井川 好二



高知の温州みかん²

「Aさん、将来の希望は？」

「先生になりたいのです」

「日本語の？」

「はい」

中国南部、温州 の出身であるAさんは、浙江省杭州市 の大学で日本語を学ぶ女子学生

² <http://www.kochi-marugoto.pref.kochi.lg.jp/kensanpin/mikan/>

³ おんしゅう【温州】ワンシウ(Wenzhou) 中国浙江省南部の都市。温州湾に注ぐ甌江(おうこう)の下流の港。絹織物などの特産があり、茶・蜜柑(みかん)・軽工業製品の集散地。うんしゅう。人口191万6千(2000)。[株式会社岩波書店 広辞苑第六版]

⁴ こうしゅう【杭州】カウシウ(Hangzhou) 中国浙江省の省都。杭州湾および銭塘せんとう江河口に間近く古来外国貿易で栄え、大運河の南端で、水陸交通の要地。南宋の首都(臨安)。西湖に臨む景勝地。伝統的な絹・手工芸品のほか、各種工業が発達。マルコ=ポーロはキンザイ(行在)の名で西洋に紹介。人口245万1千(2000) [株式会社岩波書店]

日本人に分かりやすいように、自分の出身地を云う時、「温州ミカ⁵ンの温州です」と云う。若い人にはどうか分からないが、中年以上の日本人には馴染み深い。確か、昔よくあった木製のミカン箱にも、「温州ミカン」の焼き印が。

彼女は、去年の九月から私の勤める大学に、11人の中国人女子学生とともに、半年間の予定で留学中である。もうすぐ予定の留学期間が終わるといふ1月の終わりに、留学生を囲んでの食事があって、たまたま私の隣に座ったのがAさんであった。

「なるほど、Aさんは日本語の先生にむいていると思うよ」

「うれしい！どんなところがむいていますか？」

「そうね。話し方がハキハキしているところ。日本語の発音がクリアでわかりやすい」

「ありがとうございます」

授業の大半は、教師の話し言葉で成り立っているので、何語で何を教えても、教える人の話し方は大切なのである。

「それから、間の取り方がいい」

「間、ですか？」

「ああ、言葉と言葉の間の時間、その取り方、リズム、タイミング。」

「はい・・・？」

「たとえば、大事な言葉を云った後に、すぐ次の言葉を云わずに、少し時間をおいてから云う。Pauseを置く。わかりますか？」

「ええ」

「大事な言葉を云う前にもポーズをおくとわかりやすい」

「ああ、なるほど」

「あなたは、日本語で話す時のポーズのタイミングがいい。その時の顔の表情もいい。云い放しにならずに伝っていることを確かめようとするところが、教師らしいね」

「ありがとうございます。勉強になります」

学習者にとって、目標言語聞き取りの難しさの一つはスピード。速すぎて分からないとよ

広辞苑第六版]

⁵ うんしゅう - みかん【温州蜜柑】日本のミカンの代表的一品種で、普通、ミカンといえどこれを指す。果実は黄橙色の扁球形、果皮薄く無種子で、美味。日本で偶発実生としてできたもので、日本の中部・南部の暖地のほか、北アメリカ・スペインでも栽培。中国浙江省の温州はミカンの生産で有名だが、これとは無関係。早生温州など品種が多い。[株式会社岩波書店 広辞苑第六版]

く云うが、話すスピードそのものよりも、適度なポーズの有無が聞き手の「体感速度」に関係する⁶。そういう意味でも、語学教師として、目標言語で話す時の間の取り方は重要なのである。とは云え、これがなかなか難しい。

「けど、先生になるのは、今すぐじゃなくて、大学院にいったから」

「へ～え、大学院か。どんな勉強をしたいの？」

「日本文学を勉強したいです、日本の大学院で」

「日本文学ねえ。誰の作品が好きですか？」

「そうですね。私は、よしもとばなな⁷が好きです」

もっとクラシックな夏目漱石の名前などが出てくるのかと思いきや、いささかびつくり。しかし、よしもとばななは、村上春樹などとならび、海外で人気の高い日本人作家の一人らしい。経済的発展のおかげで豊かになった中国では、若い人たちの間で、日本人作家の作品を好む傾向が広がっているようだ。政治と文化は別と云う現象は、ここにも現れている。

最近の Japan News⁸ に、韓国や中国で日本の本の翻訳版が大人気と報じる記事があって、その中で：

The rise is mainly due to the developing economies of both nations in the several last decades and a growing number of wealthy people, as well as people's diversifying sense of values there. ("China, S. Korea devour books from Japan", *October 15, 2014*)

経済発展とそれに伴う富裕層の増加、そして人々の価値観の多様化が、日本の本が受け入れられる背景にあると云う。

「今度東京へ遊びに行くのですが、下北沢⁹へ行こうと思っています」

⁶ See, for example, Rost, M., & Wilson, J.J. (2013). *Active Listening: Research and Resources in Language Teaching*. Arbingdon, UK: Routledge.

⁷ 吉本ばなな（よしもと・ばなな）作家。1964年7月24日、東京都生まれ。日大芸術学部文芸学科卒。卒業後アルバイトをしながら書いた『キッチン』でデビューし、一躍ベストセラー作家に。『キッチン』はイタリアでスカンノ文学賞を受賞。イタリアでは6万部を超えるベストセラー、その他アメリカ、ドイツ、韓国など各国で出版され、高い評価を得ている。【現代用語の基礎知識 2002年版】

⁸ <http://the-japan-news.com/news/article/0001613859>

⁹ 下北沢は、東京都世田谷区の北東部に位置する地域名。概ね同区北沢の全域と代沢の一部あたりを含む下北沢村がかつて存在したが、現在は現地周辺に「下北沢」という地名は存在していない。略して下北とも呼ばれる。町名としての北沢は、一丁目から五丁目

「ええ？下北沢って？」

「ああ、よしもとばななの作品に、下北沢が書いてあるので」

「へええ？」

「『もしもし下北沢』という作品です」

中国人学生に日本人作家の作品を紹介してもらおうとは、考えもしていなかった。「もしもし下北沢」のあらすじは、以下の通り¹⁰。

お父さんが知らない女と心中してしまった。残された私は、自分の人生をやり直すため下北沢に部屋を借り、近所の小さなビストロで働き始めた。ところが、ようやく日常生活を取り戻しつつあった頃、突然お母さんが私の部屋に転がり込んできて、奇妙な共同生活が始まる。決して埋めることのできない喪失感、孤独を抱える母娘を下北沢の街がやさしく包み込む——。どこにでもある、でも、たったひとつの人と街の愛しい物語。

そんな下北沢を歩いてみたいらしい。ある意味で日本的とも思える叙情だが、価値感の多様化した中国では、こうした叙情を理解し、共通の感覚として共有できる若い人たちが増えているのだ。



「もしもし下北沢」 (2012) (幻冬舎文庫)¹¹

まで存在する。同地区の人口は17,835人である。(Wikipedia)

¹⁰ <http://matome.naver.jp/odai/2137223330602524401>

¹¹ <http://matome.naver.jp/odai/2137223330602524401>

私は知るよしもなかったのだが、この小説に描かれたことにより、下北沢は一躍観光地になった。よしもとの小説に書かれたいろいろな店の紹介もネットにあるのである。

外国人の東京観光と云えば、下北沢は築地と並んで、人気スポットであるようだ。

「おもしろそうな話だね。けど、日本語で読んだの？」

「いいえ、残念ながら、まだ中国語に翻訳されたものだけです」

「やっぱり日本語で読まないかね」

「はい、がんばります」

日本語を勉強し始めて3年あまり。Aさんが、もうすぐ日本語で書かれた小説を読んで、日本語で論じることができるようになるだろうと思えるのは、やはり彼女が優れた語学学習者であるからだろう。

二月半ばの帰国までに、多くの学生が、東京の他に、北海道の札幌への旅行も考えているようである。「さっぽろ雪まつり」¹²が目当てのようである。また、何人かの留学生は、韓国ソウルへショッピングにでかけるらしい。洋服と化粧品を買いに行くそうで、こんなところにも、今時の中国人の豊かさが現れている。中国の大学生にアルバイトの習慣はないので、円安とは云いながら、親の負担もたいていではない。

最近の朝日新聞が、「中国人によるぜいたく品の購入は2014年に全世界の半分近くを占めたが、その4分の3は国外で買われている」と伝えている。驚きの数字であるが、然もありなん。

この日本での半年間、中国人留学生たちは、本国では経験のないアルバイトを体験した。ホームステイではないため、大学の授業と学生寮の往復だけでは、社会経験も限られるし言語学習の観点から云っても、日本語に触れる機会もその種類も限定される。適度なバイトの効用は、そこにある。決して、金銭的メリットだけのことではない。

多くは飲食店でウエイトレスとしての体験だが、最初は注文する客の日本語が聞き取れなくて大変だったが、徐々に慣れていったとか、失敗した時、日本人の同僚に励まされたことも、うれしかったとか。最近の難しい日中関係を反映して、つらい経験をしたのかと思いきや、楽しんだようで安心する。

¹² <http://www.snowfes.com>

¹³ http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20150202-00000032-asahi-bus_all

「ママさんが優しくてとてもうれしかった」と云うのは、大学の最寄り駅周辺にある焼き鳥屋で、ウエイトレスとして働いていたBさん。

「私がお客さんの注文間違った時にも、ママさんは、一緒に行って謝ってくれました」

酔っ払いの客に絡まれて、中国人だからと嫌なことを云われたことはないかと聞いたが、そんなことは全くなかったと云う。「お客さんも優しいです」

Bさんは私の向かいの席に座っていて、日本人女子学生とほとんど変わらないファッション感覚の持ち主である。ソウルにショッピングへ出かけるといったのは、この娘である。紹興酒¹⁴ で有名な紹興市¹⁵ の出身。



紹興酒の瓶¹⁶

こんな中国の女子学生たちと、他にもいろいろ話をした。日頃、中国人に聞いてみたいと思っていたことを聞いてみた。むろん、政治や外交の話題ではなく、文化の面での疑問である。

¹⁴ しょうこう - しゅ【紹興酒】蒸したもち米と小麦麴こうじを原料とする中国の代表的な醸造酒。アルコール分14～20パーセント。浙江省紹興が主産地。長期間熟成したものを陳年紹興酒または老酒ラオチューという。シャオシンチュー。[明鏡国語辞典 第二版]

¹⁵ しょうこう【紹興】(Shaoxing) 中国浙江省北東部の都市。春秋時代の越の都。紹興酒で名高い。また南方の平水は浙江有数の茶の産地。魯迅の故郷。人口63万3千(2000)。[株式会社岩波書店 広辞苑第六版]

¹⁶ <http://blogs.yahoo.co.jp/kurocelestar/33515522.html>

「台湾や香港の中国人は、自分たちの名前を英語にすることがあるよね。たとえば、英語で話している時、“ Please call me Nancy”とか。それってどう思う？」

「そうですね。私たちから見ると、それはおかしく聞こえます。私たちはそういうことをしません。けど、それは、英語で話しているからではないですか？」

「英語で話していても、日本人や皆さんのような本土の中国人は、自分の名前を英語風にはしませんよね。台湾や香港の人たちだけです」

「台湾のことはよく分かりませんが、香港の場合、歴史的な事情も考える必要があるのではないのでしょうか？」

「なるほどね、イギリス植民地支配の影響ね」

こちらの不躰な質問に、スマートに答える。

ちなみに、彼女たちは英語も話せると云う。Aさんは、大学受験の時、英語の専攻コースを選んでよかったのだが、日本語を学ぶ人が減っているので、日本語がちゃんとできて英語もできたら、就職しやすいだろうと日本語コースを専攻したと云う。

「ジャッキー・チェン¹⁷ は中国ではどう呼ぶの？」

「成龍、シェンロン」

「そらそうやね。中国名の芸名か」

当たり前と云えば、当たり前。

「そうしたら、もうひとつ聞いてもいい？」

「はい、どうぞ」

「みんなの名前、日本では、漢字のピンイン¹⁸ じゃなくて、日本語読みになっているよね」

¹⁷ チェン Chan, Jackie [生] 1954.4.7. 香港： 香港の映画俳優，監督。本名陳港生。中国語の芸名成龍。7歳のときから京劇の基礎を学び，カンフーをこなせる子役として舞台に出演。映画界にも8歳でデビューしたが，本格デビューは1974年の『廣東小老虎』。1978年の『スネーキー・モンキー/蛇拳』『ドラック・モンキー/酔拳』で一躍脚光を浴び，同1978年『クレージー・モンキー/笑拳』で監督業にも進出。1980年の『ヤング・マスター』の大ヒットによりカンフー映画の第一人者となる。[ブリタニカ国際大百科事典 小項目版 2008]

¹⁸ ピンイン【音】(pinyin) 中国語の発音を表記するためのローマ字、またその音。1958年に中国で公布された「漢語音方案」に基づき、子音と母音とを表す26個のローマ字により現代中国語が綴り合わされる。[株式会社岩波書店 広辞苑第六版]

「はい。私の名前は『ちん・れいきく』です」

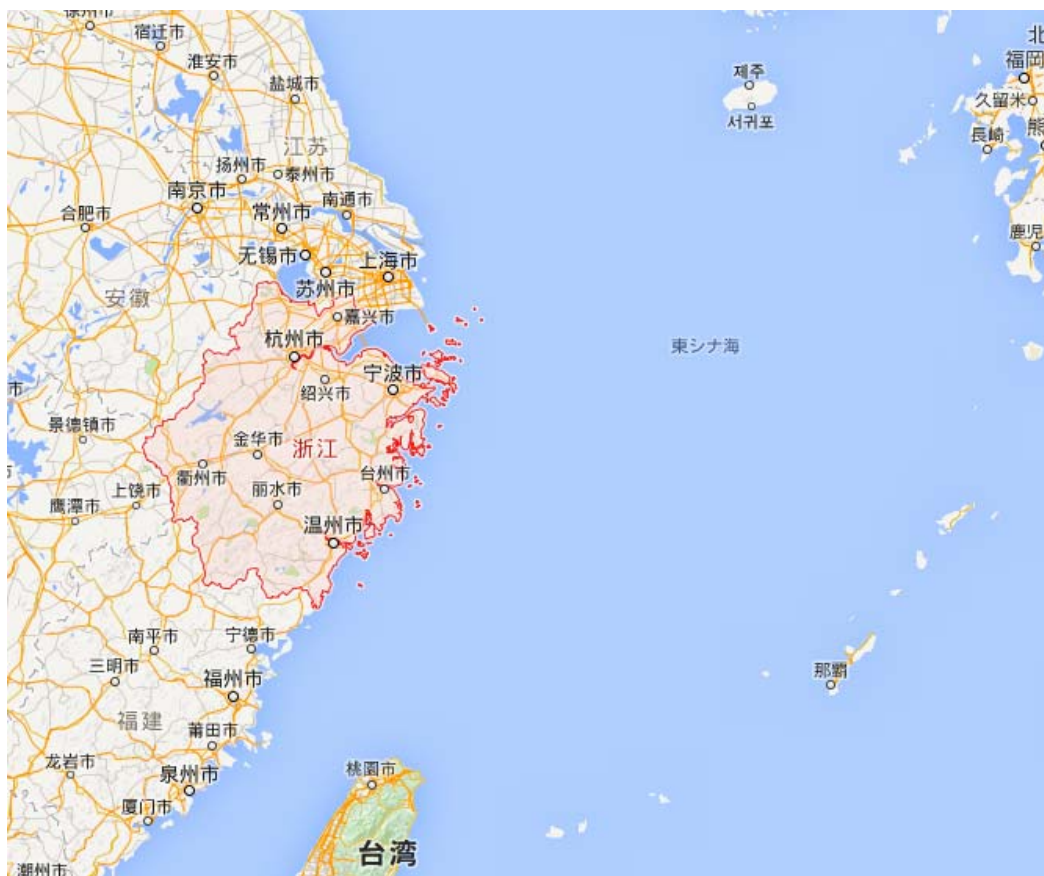
「けど、どうしてピンイン『チェン・リージュ』と呼んでと云わないの？」

「ここは日本だし、日本語を勉強しているから」

「なるほど。けど、日本人はピンインができないから、変に読まれるより、日本語式の方がましと思ってる？」

「ああ、それもあるかもしれません」

まだまだ聞きたいことはたくさんあるが、中国のことが少し分かった気になる食事会であった。(Saturday, February 7, 2015)



浙江省と日本の位置

持続可能な在り方

塚本美紀

文部科学省の大学向けの助成金の説明会に出席するため、1月の終わりに東京に行った。神保町にある一橋大学の講堂で行われた説明会は、日本中から1000人以上の関係者が

集まるため、朝から3回に分けて実施された。競争的資金制度がますます進んでいるとかで、大学もぼんやりしては、何もできなくなってしまうらしい。いろいろな条件を整え、意義のあるプロジェクトを計画し、資金を得て、それを実施することが求められているとのことだ。

今回参加した説明会は、大学が地域の知の拠点として機能するための助成金についてのものであったが、最近の国会で地方創生に関する法案が通過したとのことで、この助成金は地方の活性化を進める方向に大きくシフトしてきているとのことだった。文科省の担当者の説明がひとしきり終わった後、参加者からいくつかの質問があった。即座にすっきりした回答があるものもあったが、中には、複数の文科省の担当者が小声で打ち合わせをした後に答えたり、あるいは、国会の審議を受けて現在検討中であるので正式な募集要項を作成するまでに決定しておきたいなどという答えもあった。

末端の現場にいると、文科省は、あるいは教育委員会はもっと迅速に対応して欲しいなどと思うこともあるが、中央では刻々と変化する状況に対応しようとしているのだということを目の当たりにしたような気がした。いずれにしても、変化しないものは生き延びられないのは自然の摂理で、個人も学校も自ら変わっていくことだけが持続可能な在り方なのだろうと思った。

カンボジアの伝統結婚式に招待されて（2）

（大阪）飯田佐恵

きらびやかさ に おどろき と 感激

2014年12月4日（木曜日）、朝の7時にNori（花嫁Phearounと Sokhomの友人）の車でホテルから結婚式場’ Daiamond Conference and Exhibition Center’（プノンペン市東端の新興開発地域にある）へ行った。7時20分頃到着したが、すでに川辺の会場前には100人あまりの行列に驚いた。



花婿行列と言われているもので、小楽隊を先頭に、花婿、彼の両親と親族が続いて、花嫁に贈る花、野菜、果物、菓子や飲み物などを持った老若男女が朝陽を受けて笑顔で静かに入場を待っていた。贈り物はあらかじめ用意されていて、私も大きな花束をもらって並んだ。

シンバルのような音の合図で列は進んだ。式場に入ると贈り物を受け取る人がいて、それらは式場内の前部に設けられたステージの上や前に飾られた。そして結婚式参列記念の印に小さい紙封筒とメモパッドをいただいた。その封筒のデザインPhearounとフィアンセの二人が考案した結婚式への招待状と同じだった。中身は後で開けて知ったが、カンボジアのお金で新札6800リエルが入っていた。何と半端な金額と思ったが、6と8はカンボジアではラッキーナンバーだそうで、絶対に使わないで大事に持つておくようにと Sokhom が教えてくれた。



招待客の名前が書かれた招待状



封筒に入っていた 6800リエルのお札

式場は’ Conference and Exhibition Center ‘と呼ばれるだけあって、1000人収容できるそうで、この日は10人ずつの丸テーブルが縦に10列、横に6～7列が並べられていて、600人も来るのと驚いた。ステージの上や前には新郎新婦とその親族が大勢座っていた。マイクを持った男性の式の進行係、僧侶、写真屋、美容師に彼らに付いているスタッフもいた。ステージ前、左右に一つずつ大きなスクリーンが立ててあり、儀式の進行が映し出

されるようになっていた。



8時前に私たち参列者に朝食のおかゆが振る舞われた。

小さい揚げパンをのせていただいたが、薄味でおいしかった。

10時頃、Noriは仕事に行った。Phearounたちは結婚式の日取りを占星術で佳き日を決めたと言っていた。だからウイークデイでもなんのそのおかまいなしで、その代わりに招待客は自分の都合の良い時間に行けば良いらしかった。

Romduol (Phearoun と Sokhom の友人) も 12 時前に職場に行った。

それから、私はSokhom が来てくれるまでPhearounのお兄さん夫婦と話をしたり、写真を撮ったりして時間を過ごした。ステージでは新郎新婦が真中で、その左右に両親、そして親族と輪になって座っていた。厳かな僧侶のお祈りの詞もあれば、クメール語で男女掛け合い漫才もあった。金銀宝物らしき物をご先祖様にお供えしたり、親族が新郎新婦の後髪を切ってから（真似だけ）香水をふったり、親族や友人がカップルで花嫁と花婿にお金を授けて、その後、二人の手首に赤い糸を巻き付ける儀式もあった。花婿のご祖母が Sokhom と私がカップルになってこの儀式に加わるように勧めてくださったとき、恐れ多いと遠慮したが、花婿のお父上までが勧めてくださったので、新郎新婦が合掌している手にお祝い金を挟んでから、Sokhom が新郎の手首に、私がPhearounの手首に赤い糸を巻かせていただいた。二人の幸せを祈ってしっかりと結んだ。ご親族がとても気さくで、私たちを親しく、長いお付き合いの間柄のように思ってくださいていることに胸が熱くなった。1時頃に昼食が出た。ものすごく空腹だった Sokhom と私はたくさん頂いた。



2時前に Sokhom に彼女の車でホテルに送ってもらった。

夕方6時に Sokhom がホテルに迎えに来てくれた。6時半に式場に到着した。大披露宴だ。プロの男性歌手が楽団に合わせて唄っていた。仕事を終えた大勢の友人、知人が集まって来た。特に女性は午前、午後の伝統衣装から洋風の色あざやかなロングドレスにお召変え

で華やかだった。名古屋大のクメール正月パーティで会った顔ぶれとまさかの再会で驚きと感激を味わった。

7時に開宴。スクリーンには新婚二人の婚約時代のデート場面が数々映し出された。各テーブルにコース料理が運ばれた。ホット鍋料理や嘴をつけたままの小鳥の丸焼きなどもあった。率先して出て来た料理を取り分けてくれる若い男性がいてほほえましかった。飲み物では酒類はビールだけで、他に缶ジュース、コーラ、Spriteなどだった。宴会中は各テーブルや招待客同士で話がはずみ、食事を楽しんでいた。

8時過ぎに新郎新婦が洋風のウェディング衣装にお色直しをして登場。

両親はステージ上に立ち、招待客は赤い毛氈の花道の両側に並んで、二人が歩いてくるとランの花びらを二人の頭に振りかけるのだ。私も“Congratulations!”と大声で言いながら花びらをかけて二人の永遠の幸せを願った。それから、最後にステージ上のPhearounから招待客へのお礼の挨拶があった。700人もの集まりの中で私は「日本からのお客さんとして」紹介されてとお礼を述べていただき、うれしくて感動の涙が出た。



その後、音楽が鳴り出して、新婚カップルの社交ダンスが始まった。そして、どんどん、ダンスの輪が広がった。私は、てっきり、カンボジアの踊りをすると思っていたから粋に社交ダンスをしている新郎新婦に驚いた。これで一応お開きになり、招待客は残っても良いし、いつ帰っても良かった。9時前に Sokhom と私は式場を出た。

朝の7時から午後9時まで（実際は昼食後4時間程は式場から離れていた）長い結婚式だったが、貴重な異文化体験をさせていただいて感謝しています。

きらびやかな金銀刺繍のカンボジア伝統の衣装、お祝い事に集まる人の多さと結びつき、カンボジアの人の美しい笑顔と温かい心は忘れません。

<編集後記> CamTESOLでカンボジアの皆さんと face to face の絆が深まりますように。（道
面和枝）